

(50代男性)

私が初めて薬物をしたのは、中学1年生の時、先輩たちが使用していたシンナーです。

中学生になってすぐ、悪い友達や先輩との付き合いが始まり、シンナーを使用することを躊躇する気持ちなど全くなく、むしろそれが格好良いと考える気持ちがあったと思います。

シンナーは16歳まで使用していましたが、依存していた割にはあっさり辞めれたと記憶しております。

中学を卒業してからは、好き勝手に暮らすといった日々で、その内、近所に住むヤクザの組長と知り合い、ヤクザの組員となってしまいました。

ヤクザになってすぐは自由など全くなく、一日中事務所で生活していましたが、それでも一日に数回は外出できる機会がありました。

一日一回の買い物、それと配達です。

覚醒剤の客から連絡があれば、事務所内に置いてある薬を近くのスーパーや駅まで配達するのです。

それが嬉しくて。

おかしな思考が入ってしまったようです。

また、事務所内では自己使用する者もいて、その者からいつも誘われていました。

そんなに良い物かと一度誘いにのったこともあり使用しましたが、ただ頭が痛くなるばかりで、それ以降は薬に対しての興味が全くなかったのです。

その後、私は「こんな所でヤクザを続けても先がない」と思うようになり、組を辞め、知人のいる場所に行くことにしたのです。

知人のいる場所にはヤクザをしに行きました。

知人は一人しかいませんでしたが、都会なのか待遇が良く、地元から離れた寂しさを紛らわせてくれました。

一年が過ぎた頃でしょうか。

他の組の仲間達と集まって遊んでいたのですが、そこに覚醒剤を持って来た者がいたのです。

皆で遊ぼうとなったのですが、私は辞めとくと一度は断ったのを覚えております。

断った私に対し、「なんだしたことはないのか？」と嫌味というか見下した言葉に対応してしまい、自己の足首に注射使用したのです。

以後30年、自己・家族・愛する者・周囲の者全てに対しての嘘と裏切りが始まりました。

初めての時とは違い、何とも言えない感覚でした。

身体が軽くなり、精神もどこか違った様な気持ちになったのです。

ヤクザをしていたので、毎日自己使用することはできませんでしたが、その内シノギとして薬を扱い、利益の一部を上納するようになってからは、完全に生活が変わってしまい、もう不細工な姿、生活でした。

初めての逮捕はその頃です。

この時は「もう二度としない」と自己に誓いましたが、二年程で再使用してしまい、再び逮捕、今度は初めての懲役です。

この頃までは、親、家族、友等の援助応援もありましたが、懲役も二度三度となると戻ってすぐに使用する罪悪感すら薄れてしまい、私に期待する者は皆無となっておりました。

もう心が、精神が、負け犬に慣れきってしまったのです。

そして脳が愚かな快樂をインプットしています。

酒を飲むと「したい」と欲求が高まります。

薬の話ですら「したい」と思うことがあります。

女の話でもそうです。

あらゆる状況・環境が原因となるのです。

心の中に、「止めたい。止めなければ。」という気持ち、考えが存在していても、感じてしまうのです。

ヤクザを辞めたのが、48歳ですが、辞めたところで仕事などなく「もう終わったのか」と幾度も思いました。

ですが、私の側には妻と母が何度も何度も何度も何度も支え続けてくれたのが救いであり、幸せであったのです。

悲哀する姿を見て初めて「頑張ろう」と思い愚かなプライドを捨て、塗装屋で働くことにしたのです。

働いてから全てが良くなり続けることはありません。

仕事の苦労は逃げられないので、大変ですし、むしろ今の方がストレスが多いかもしれません。

薬も何度か使用したこともあります。

はまりそうにもなりました。

ですが、仕事を続けていることが心のストッパーとなり、自分の足で前に進める生き方ができています。

薬をしてよかったこと、あるはずがないことは誰でも分かると思いますが、薬をして失ったこと、悪かったことは誰一人として全てを認識できないのではないのでしょうか。

それ程多大なものを失うのでしょうか。

もう大丈夫なのか、と尋ねられると、「わからない」というのが正直なところでしょうか。

ですが、「今日は大丈夫」とだけ言えます。

一日断薬、これを続けていくしかないようです。

依存は病気と言う者がいますが、どうなのでしょう。

この言葉は逃げの材料です。

まずは、環境、生活を変えることではないのでしょうか。

驚くほど変われます。

最後に、近頃気がつき始めたことがあります。

周囲は、己が考える以上の心配、苦勞、悲しみをしていたんだ、と思います。

全然一人じゃなかった。

勝手に思い込んでいただけだったと思うのです。

感謝の継続は難しいです。

ですが、感謝です。

この文章を通じて、過去、現在と向き合えたことは、とても有益なものとなり、心から感謝しております。

ありがとうございました。